



平成22年度南三陸町読書感想文コンクール及び作品集イラストコンクールの入賞者を紹介します。(敬称略)

小学校低学年の部

- 【最優秀賞】 志津川小(1年) 伊勢まどか
【優秀賞】 志津川小(1年) 京極瑞稀
戸倉小(3年) 阿部萌
入谷小(2年) 千葉陽太
【優良賞】 志津川小(1年) 及川椋太
菅原尚志 高橋明和紀
志津川小(2年) 菅原彩友
菅原凜 日野汐音

小学校低学年の部 最優秀賞

みんな すごいね

伊勢まどかさん (志津川小学校1年 ㊦大船沢)



本に出てきたひろ君の、思いやりのある気持ちが「すごいなあ」と思いました。私も、まわりにそういう人がいたら助けてあげたいと思います。また、初めて書いた読書感想文が最優秀賞に選ばれて、家族のみんなに喜んでもらえたのでうれしいです。

小学校高学年の部

- 【最優秀賞】 志津川小(4年) 高橋玲
【優秀賞】 志津川小(4年) 太齋仁
戸倉小(6年) 小野寺みなほ
入谷小(5年) 千葉優衣
【優良賞】 志津川小(4年) 阿部雅矢
高橋二郎
志津川小(5年) 高橋莉子
志津川小(6年) 熊谷江里子
山内瑞歩
戸倉小(4年) 小山明日香
佐々木暁美
入谷小(4年) 佐藤友香
入谷小(5年) 菅原咲季 村上成一
入谷小(6年) 阿部京香
伊里前小(5年) 千葉佳帆
伊里前小(6年) 高橋琴乃

中学校の部

- 【最優秀賞】 志津川中(1年) 三浦壮馬
【優秀賞】 志津川中(1年) 高橋晶奈
志津川中(2年) 行場早紀
志津川中(3年) 小山理央
【優良賞】 志津川中(1年) 阿部隼三
浦瑛恵
志津川中(2年) 横山零 渡部拓季
戸倉中(1年) 梶谷翔輝
戸倉中(3年) 今野茜
歌津中(1年) 阿部友美 千葉真帆
歌津中(2年) 阿部瑞姫 及川莉穂 千葉将喜
歌津中(3年) 阿部智輝 阿部美佑 阿部有希 佐藤えりか
【最優秀賞】 志津川中(1年) 佐藤小夏
【優秀賞】 志津川中(1年) 佐藤小夏

イラストコンクール

- 志津川中(1年) 山内弥生
【優良賞】 志津川小(1年) 佐藤花澄
志津川小(2年) 菅原凜 鈴木七彩
志津川小(3年) 菅原彩希 千葉心
志津川小(4年) 阿部璃加子 及川琳己 小山響貴 佐藤亜海 三浦紡
志津川小(6年) 阿部真知 遠藤ありさ 後藤美波 佐藤海人 渡邊樹
戸倉小(2年) 小林汐樹
戸倉小(3年) 佐藤穂乃香
戸倉小(4年) 小林岬太郎 近藤奈月
戸倉小(5年) 小山美里 三浦千裕 三浦智香
戸倉小(6年) 阿部穂菜美 須藤未帆
入谷小(4年) 佐藤花音
入谷小(5年) 菅原藍香
入谷小(6年) 西城佑香 佐藤遼河 菅原奈緒 菅原佑真
伊里前小(5年) 大沼るな 小野未沙希
伊里前小(6年) 大沼ほのか 三浦優
名足小(3年) 三浦汐音
名足小(4年) 小野寺広恵

連続出品特別賞

- 【3年連続】 志津川小(3年) 横山鈴
志津川小(6年) 佐藤京香
戸倉小(5年) 今野愛美
伊里前小(5年) 千葉佳帆
名足小(3年) 及川沙海
志津川中(2年) 横山零
志津川中(3年) 小山理央
戸倉中(1年) 佐々木優衣
戸倉中(3年) 菅原将博
歌津中(1年) 千葉真帆
歌津中(2年) 及川莉穂
歌津中(3年) 千葉夏海
【6年連続】 志津川小(6年) 熊谷江里子

がつこうのとしよしつでよみたい本をさがしている、かわいいおとこのこのえともようがかいてある「どんなかんじかなあ」という本をみつめました。「どんなかんじ」ってどういうことかなあとおもって一ページ目をひらくと、「ともだちの まりちゃんはおめがみえない。」というところから、おはながはじまつていました。えっ、目がみえないって、どんなこと...これって、どんなおはなしなの...とおもい、この本をよんでみることにしました。

まず、目をとじてみました。まつくらですごくきみがわるかったです。でも、目をつぶると、いつもより音がいつぱいきこえてきました。つぎに、耳をふさいでみました。いままできこえていた音がきえて、なんだかふしぎなかんじになりました。そして、ともだちがしゃべっている口を、じーっとみて、なにをいつているか、わかるうといっしょうけんめいでした。いつもは、おともだちの口のうごきなんて、きをつけたことなんか無いのに。耳がきこえないと、いつもより目をいつぱいつかうんだなあとおもいました。つぎに、おとうさんとおかあさんがいなくなったら...と、かんがえてみました。いやです。ぜったいにいやです。さびしくてさびしくて、かんがえたくありません。でも、ひろくんのともだちのきみちゃんは、ひろくんが、「きつと、すぐおく さびしいんだろうね」ときくと、「それでもないよ」といいました。わたしは、き

みちゃんですごいなあとおもいました。ほんとは、さびしくないわけないのに、ともだちのひろくんをかなしませないために、「こんなふうにいっただんだとおもいます。じぶんのことより、ともだちのことをかんがえられるって、すごいなあとおもいました。

このおはなしのさいごのほうをよんでいて、ひろくんは、じぶんでうごくことができないうことがわかりました。だから、いつも、じつといろんなことをほかの人よりもかんがえているようです。わたしは、この本に出てくる人は、みんなすごいなあとおもいました。いつか、こんな人たちにあつたら、おともだちになりたいなあとおもいます。

書名:「どんなかんじかなあ」
著者名:中山千夏/ぶん
和田誠/え
出版社:自由国民社